

新宮山彦ぐるーぷ第2250回

故山川治雄氏3回忌の慰霊と玉置神社一の鳥居訪問

◇実施日 8月27日(日) 曇時々晴れ

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、中前偉、大森洋、濱野兼吉、阪

口雄二、湯川一郎、大江加予子・徳子、畑林清子、生

熊千満子、西克、山川自知、高階鈴子。美根子、梶野

照雄、植平修、瀧本昭太郎、志岐敬 19名

山川さんが亡くなって丸2年になり3回忌を迎えた。今でもあの時の第一報が耳から離れることは無い。地域への貢献活動、山に関する蘊蓄と行動力、どれをとっても第一級の部類に入ることには言うまでもない。奥駈道や山彦にも多大な貢献を頂いた。



本日その慰霊に19名の皆さんがお集まりくださった。梶野、志岐、植平、瀧本の4氏は遠路ご参加いただき厚くお礼申し上げます。午前9時30分、玉置辻に集合。和歌山市からの瀧本さんは到着第

一声が「携帯電話が見当たらない、落としたか途中で立ち寄った所に忘れてきたのかだが、探しに戻るので今日は参加できない」というものだった。皆の顔を見ただけで引き返していかれたが、10分ほどで戻ってきて「車の中にあった」と恥ずかしそうに話された。他人事ではない。私を含め皆さんも年を重ねているので、落とし物や忘れ物が多くなっているようだ。十分に気を付けよう。

林道を歩いて30分ほどで事故現場に着く。梶野君が供台を設置してくれた後、女性の皆さんでミカン、お菓子、色花、檜、酒、ビールなど、たくさんのお供え物を置き、中前君から心経やお念仏などを頂いた。



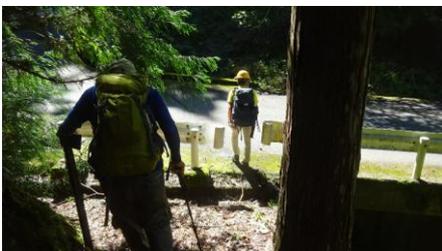
今日は山川自知君も参加された。ここへ来る度に「無理するな、

安全第一」を強く念じ、そして今後もこのような事故がないよう、皆さんも強く意識していただきたい。

玉置辻に戻り本日ももう一つのメニューである一の鳥居訪問の為村道を4km程下った林道入り口まで移動する。

玉置神社一の鳥居は令和3年1月2日雪の残る中、湯川君と二人で竹筒より訪問し、翌月2月4日に山彦の行事として12名で訪れた。その時は山川治雄さんも参加され「始めて歩くが、なかなかいいコースだ」と喜んでいたことを思い出す。

その後今年に入り湯川君が一人で鳥居周辺の道を探索、今日のコースも歩いて確認していた。7月30日には湯川、沖崎の二人で下見も行った。



鳥居があり玉置神社の本殿が南向きであることからこのコースが表参道であったと思われる。

昔、新宮の人が玉置神社にお参りする際は船で熊野川を遡上、竹筒

で船を降りて鳥居のあるこの道を歩いて玉置神社に参拝したであろう由緒ある道だ。木馬道のような幅員があり、勾配も急なところは無い。古道・参道の雰囲気は伝わってくる。今では歩く人が殆ど無いようで、一部荒れた箇所もあり、処理されていない倒木も数多くあった。チェーンソーを担いできた梶野君が10本位の倒木を処理し、1時間40分で一の鳥居に着き、昼食後に同じ道を引き返して下山した。

(記：沖崎)

行動タイム

09：30 玉置辻→10：10 事故現場 10：20→11：20 参道入り口→12

：55 一の鳥居 13：30→14：37 参道入り口